第24回大学教育研究フォーラム
2018年3月21日＠京都大学　参加者企画セッション

「学修成果の多角的・継続的な可視化とその活用
―育成と一体化した評価の試み―」

指定討論

鳥居 朋子
立命館大学 教育開発推進機構／大学評価室

RITSUMEIKAN

大学の力量（capacity）と根拠（evidence）

- 大学の責務：教育力の証としての学生の成長、学びの成果への絶え間ない検証の視点
  - 一連の学修が終わった時に学生が獲得した成果を目標に照らして測定
- 21世紀初頭のメガトレンド：質保証、学習成果の挙証、結果の透明性
  - グローバル化、競争的な高等教育市場、国際ランキング、説明責任

コメントの要点

- 内部質保証の考え方
  - 各階層のPDCA：大学-教育プログラム-授業
  - 複雑な組織体としての大学の教育成果
- 学習成果の可視化
  - 「逆向き設計（backward design）」の発想
    - 目標-実行-評価の整合
- 育成像のモデル
  - ３ポリシーとの関係：入学から卒業までの成長
  - モデルの探索
- いくつかの問い

内部質保証の考え方

- PDCAサイクル等を適切に機能させることによって、質の向上を図り、教育・学習等が適切な水準にあることを大学自らの責任で説明・証明していく学内の恒常的・継続的プロセス（大学基準協会, 2016）
- 第３期認証評価（2018年度～）
  - 「内部質保証」は基準10から基準２へ
  - 「把握し、評価した学習成果を適切に活用」（基準4）

複雑な組織体としての大学の教育成果

- 包括的な視点で捉えることの重要性
  - 多様で複雑な組織体と評される大学における教育改善のプロセス
  - 階層的な管理構造（大学・教育プログラム・授業）、水平的な学術機関（学部・研究科等）
  - 各階層におけるPDCAの連動
    - 授業レベル（ミクロのPDCA）–教育プログラムレベル（ミドルのPDCA）–大学レベル（包括的なPDCA）

教育プログラム

- プログラムとは、「身に付けるべき能力を育成する課程。大学においては、修了者の能力証明として発展してきた学位を与える課程」（中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて-生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ」2012, p.6）

教育プログラム

- 教育目的を達成するために体系的に編成された授業科目群（カリキュラム）、ならびに、その実施のための教育方法、学修成果の評価方法、教職員配置、教育環境など、計画的に設計された教育プロセス・環境を総合的に指し示すものである。「教育プログラム」には、学士・修士・博士・専門職学位といった学位を与える課程を指す際に用いる「学位プログラム」を含むとともに、必ずしも学位にはつながらないプログラム（たとえば修了証明書を授与する短期コース）も含む（大学改革支援・学位授与機構「教育の内部質保証に関するガイドライン」2017, p.13）

「逆向き設計」の３段階

1
- 求められている結果（究極目的）を明確にする

2
- 承認できる証拠（評価方法）を決定する

3
- 学習経験と指導を計画する

ウィギンズ・マクタイ（2012）を参照し作成

育成像のモデル

- ３ポリシー：入学から卒業までの成長

  大学生の能力と、大学教育を通じて形成された能力とは違う（小方, 2008）

  - 間接指標と直接指標の活用、ベンチマーク
- 一体的な指導（育成）と評価
  - 「温もり」のある可視化
  - ピアの相互作用
- モデルの探索
  - 未知の成長課題が存在する可能性

改善につなげるための論点

- 企画者と３大学のへの問い１

「検証・活用のプロセス」（企画趣旨説明資料）の「①育成したい人物像と『成長』の定義」は、大学としての目標や大学ないし学部のDP等とどのようにつながっているのか？

改善につなげるための論点

- 企画者と３大学のへの問い２
  いま進めている取り組みは、大学が育成したい人物像の実現にどれくらいインパクトを持っているのか？

改善につなげるための論点

- 企画者と３大学のへの問い３
  授業レベル-教育プログラムレベル-大学レベルのPDCAはどのように連動しているのか？

改善につなげるための論点

- ＋３大学への問い

他の２大学の取り組みから得た示唆や、自校に適用可能なこととは？
　自校の取り組みは、どんな大学であれば参考にしやすいと考えるか？

ref. 鳥居・岡田・川那部・山田（2016）「共通教育の質保証のためのマネジメントのティップスVer.1.0」

ご清聴ありがとうございました

主な参考文献等

- 大学基準協会（2016）『第３期認証評価における大学評価の実施ガイド』大学基準協会。
- 小方直幸（2008）「学生のエンゲージメントと大学教育のアウトカム」『高等教育研究』第11集、玉川大学出版部、pp.45-64。
- 鳥居朋子・岡田有司・川那部隆司・山田剛史（2016）「共通教育の質保証のためのマネジメントのティップスVer.1.0」http://daigakukyoiku-gakkai.org/site/researchprojects/outcomes/
- Wiggins, G., & McTighe, J. (2005). *Understanding by design* (Expanded 2nd ed.). Alexandria, VA: Association for Supervision and Curriculum Development.（ウィギンズ,G.・マクタイ,J.（2012）『理解をもたらすカリキュラム設計-「逆向き設計」の理論と方法-』（西岡加名恵訳）日本標準）